

実力アップ!
日本語能力試験
2級

松本節子＋星野恵子



北京語言文化大學出版社

JITSURYOKUAPPU! NIHONGO NOURYOKUSHIKEN 2KYU

By Setsuko Matsumoto & Keiko Hoshino

Copyright© 2001 by Setsuko Matsumoto & Keiko Hoshino

Original edition was published by UNICOM Inc. in Japan.

This copyright was limited in mainland China.

责任编辑: 王弘宇

封面制作: 何向坤

ISBN 7-5619-1053-3



9 787561 910535 >

定价: 23.00元

実力アップ!
日本語能力試験
2級

松本節子 + 星野恵子

北京語言文化大學出版社

(京)新登字 157 号

图书在版编目(CIP)数据

提高实力! 日语能力试验 2 级/(日)松本节子、星野惠子编著.

—北京:北京语言文化大学出版社,2002

ISBN 7-5619-1053-3

I. 提…

II. ①松…②星…

III. 日语-水平考试-自学参考书

IV. H360.42

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2002)第 019075 号

著作权合同登记号图字:01—2002—1175

责任印制:乔学军

出版发行:北京语言文化大学出版社

社 址:北京市海淀区学院路 15 号 邮政编码 100083

网 址:<http://www.blcup.com>

<http://www.blcu.edu.cn/cbs/index.htm>

印 刷:北京师范大学印刷厂

经 销:全国新华书店

版 次:2002 年 5 月第 1 版 2002 年 5 月第 1 次印刷

开 本:787 毫米×1092 毫米 1/32 印张:10.125

字 数:187 千字 印数:1—3000 册

书 号:ISBN 7-5619-1053-3/H·02027

定 价:23.00 元

发行部电话:010—82303651 82303591

传真:010—82303081

E-mail:fxb @ blcu. edu. cn

前言

本书是日本 UNICOM 出版社出版的“日语能力试验”速成自学用书(1级·2级共两册)。本书由北京语言文化大学出版社自日本引进,照相制版,原书原貌。

本书特点:针对外国人学习日语的难点编写,解说极为简明,让读者主要通过研读例句、做练习来掌握常用词语和惯用型的用法。

本书选收的都是采自日本对外日语教科书以及报刊的使用频率高、外国人必须掌握的常用词语和惯用型。按难易程度分为E--A五个等级。

第一部分为全书目录。

第二部分为常用词语。选收意义较多、又很难用汉语直译出来的常用词语,先用选择填空形式提出问题,然后逐条解释含义和用法,再配以例句以助理解,最后编排若干练习进入实际应用。

第三部分为惯用型。除解释、例句、练习外，还对近义惯用型的使用差别和误用例加注提示。在各级的最后部分配有综合练习题。

第四部分为自测练习。把学习日语的外国人较难掌握的副词、拟态词、惯用词组、谚语编排到练习中去，强化读者对这些语言形式的理解。

第五部分为索引。

本书由北京语言文化大学出国留学培训部教师向“日本语能力试验”（1级·2级）考生推荐。

北京语言文化大学出国留学培训部

马心丹

2002年5月

この本を使うみなさんへ

この本は独力で、しかもできるだけ速く日本語能力試験
1級・2級の準備をしたいという外国人のみなさんのため
に作られています。

この本には次のような特長があります。

1. よく使われる日本語の表現文型、慣用表現、また、
副詞などの使いにくい言葉の用法を知ることがで
きる。
2. 文型や言葉の解説はポイントだけで短く簡潔だが、
例文を読み、その後ドリルを解けば表現や言葉の
意味と使い方がわかる。[?]
3. 文型や言葉はやさしいものから、難しいものへと
順番に出されているので、実力をだんだんに高め
ていくことができる。
4. ドリルの答は必ず同じ頁の下に書いてあるので、
どこでも、例えば電車の中でも、楽に勉強するこ
とができる。
5. ドリルの各問題は、その問題のポイントの解説が
どこに書いてあるかを示してあるので、まちがえ
た時はすぐ復習することができる。
6. 「基本文」「例文」には日本人アナウンサーによる
録音テープがある。標準日本語をくり返し聞いて
耳の練習をすれば、聴解テストの準備にもなる。

この本の構成

I：日本語表現のポイント

日本語でよく用いられる表現文型や使いにくい語を集め、易しいものから難しいものへとレベル順に提出してある。

レベルは2級五段階(E→A)、1級五段階(E→A)の計十段階に分けられている。

取りあげた文型、語は主要日本語教科書及び新聞などの資料に基づいている。教科書の中に多く取り入れられているものを必修項目とし(2級レベルE)、取り入れられている頻度は高くないが重要だと思われるものを、最高レベル(1級レベルA)と定めた。

各項目は次の部分から成る。

①基本文型……例題の形で提出してある。

②【ポイント】……簡単な解説。例文・ドリル演習による理解をねらっているので、説明は最小限にとどめた。
◀ ▶の中に多く使われる形の作り方を示してある。

(例) ◀ A 。ところが B ▶

下線部はA、Bが文であることを示す。

[] に、他の語による言い換え、類似表現などを示した。

③用例文

基本的な用例を文で示した。

(特に注意すべきことは **注** マークで解説した)

④【ドリル】

⑤解答……各頁の下欄に記されている。

各レベルの終わりには「総合ドリル」を設けた。ここで学習者は自分の理解度をチェックすることができる。各問には該当する項目の番号あるいは基本文番号を、明示し容易にフィードバックができるようにした。

ドリルの解答は全て問題と同一の頁の下欄に記してある。

II：言葉シリーズ

形式名詞や、形の類似した紛らわしい表現を集め、用例を示した。

本文に入る前にまず「スタートドリル」で自分の力をチェックし、本文を学習した後は「応用ドリル」で理解度を知ることができる。

III：慣用句

慣用句の意味と用例文を全篇に挿入した。

IV：読み物

読解の練習、並びに最新の日本事情を知ることを目的としている。

なお、本書作製に際して、日本語教育の現場から貴重なご助言をいただいた本間克彦先生、藤井和子先生をはじめ、各機関の諸先生方に心よりお礼を申し上げます。

日本語能力試験（2級）の問題分析

「能力試験に出題された項目」を見ればわかるように、能力試験に出題されたもののほとんどは、この速修シリーズにとりあげてある。この本およびテープによって、能力試験は万全の対策ができるはずである。

実際の試験にはどんな問題がどんな形で出題されるのか、以下分野別に見ていこう。

文字・語彙

問：漢字の読みの問題

(例) 図書館では本を貸しますが……。

1. とうしょうかん ~~あ~~ とうしょかん

3. としょうかん 4. としょかん

この問題では、おくりがなの出題はない。「つ」と「っ」の書き分け「ゝ」があるかどうか、長い音か短い音かに気を付けること。

問：似ている漢字の中から正しいものを探す問題

(例) かんきやくは、さかんに拍手をした。

1. 歓客 2. 館客 3. 勧客 4. 観客

その他「効」と「郊」・「積」と「績」・「建てる」と「立てる」などの使い分けを勉強しておくこと。問題の文にひらがなが多いので読みまちがえのないようにゆっくり2、3回読んでみる。

又、答の漢字もまぎらわしいものが多いので、漢字

の意味を考えながら正確に見分けること。

問：適当な言葉を選ぶ。

(例) 子供たちはお祭りを_____を長くして待つ。

1. 耳 2. 目 3. 鼻 4. 首

1 級とほぼ同じ形式だが、慣用句の問題が多い。外来語も必ず出題されるが、外来語の正しい書き方は要求されないので、外来語に弱い人にもそれほど難しい問題ではないだろう。

本書では、よく使われる慣用句を例文を示して、とりあげてあるので参考にしてほしい。

(例) 歯をみがく習慣を_____。

1. もらう 2. つける 3. とる 4. する

その他、上の(例)のようなよく使われる名詞と動詞の決まった組合せや、副詞の決まった使い方(例：あまり～ない、けっして～ない)なども勉強しておくこと。

問：言葉の意味の問題

(例) 期待どおりで感心するようす。

1. やがて 2. さすが 3. よほど 4. もっとも

外来語と慣用句は必ず出題される。その他擬態語、(例：ヒリヒリ、ピリピリ)の問題もある。1991年度では、言葉の組合せの問題が増えた。

読解・文法

文法といっても文法だけの出題はなく主にまとまった文を読んで理解する力を試す問題である。正しい言葉を選ぶ問題は特にこの**速修シリーズ**で勉強すれば、90%以上の得点があげられるにちがいない。

問：これは30行程度の長文を読んで、例のような問に答える問題。

(例)「こんな楽しいことはありませんよ」とあるが、「楽しいこと」というのは何か。

1. 年をとったこと
2. 仕事をする事
3. 金をもうけること
4. 日曜日に休むこと

文がかなり長いので、まず問にさっと目を通し、その答を探しながら本文を読むといい。内容を理解しているかどうかをみる問題、文中の指示^{しじ}の言葉「これ、それ」が何をさしているかを答えさせる問題、文の主語や動作をしたのは誰かなどを問う問題など。文のだいたいの意味だけでなく、細かい部分も正確に理解したかどうか試される。

《文の出典》

1990年 NHKブックス「家庭という風景」

新潮社^{しんちょうしゃ}「事実を見る目」

1991年 「楽しい科学の話」

岩波^{いわなみ}「けんかの仕方^{しかた}教えます」

文のテーマ

日常、新聞やニュースで話題になっているものが多い。日本人が今、どんなことに興味を持ち、その問題についてどう考えているかを知っておかなければならない。日本人大学生が常識としているような知識、日本人の価値観などに常に注意している必要がある。新聞記事では一時的に話題になってすぐ消えてゆくものは出題されない。経済・政治に関する問題は今のところほとんどない。また、週刊誌や若者向けの軽い読み物からの出題もない。一般的に文化的・学問的なものが多く出題されている。

問：数行の文を読んで一つの問に答える問題。

(例) この文章は、何を説明しようとしたものか。

1. 魚屋はなぜ鯛を安く売らないか
2. 鯛がなぜおいしいのか
3. 経済学的な考え方とはどんなものか
4. 鯛はほんとうに高級な魚なのか

これも先に問を読んでから本文中から答を探すとい
い。1991年度2級にはかなり色々の種類の文が出た。

例えば、手紙文を読んで、礼状か、招待状かおわび
かを問うものや文の筆者は女性か男性かを問うもので
ある。ふだんから様々の種類の文を読んでおくとい
い。出典は高校の教科書から単行本まで様々である。文の
細部はわからなくても、ポイントを速く理解する速読
法を身につける必要があるだろう。

問：正しい言葉を選ぶ問題

(例) 店の装飾やサービスに一流の店_____の品が感じられる。

1. であれ 2. ならでは 3. らしき 4. ごとき

聴解

録音の状態が悪いのか、会場の音響効果が悪いのか、席の位置によっては聞きとりにくいという声が聞かれる。会場が静かにならないうちに始まることもあるかもしれないので注意が必要。しかし問題は難しくないので集中して聞けば、かなり得点があげられる。

問題が変わるごとに「例」の練習があるので、よく注意してテープの音に慣れるようにすること。また時間が長いので(35分)途中から疲れてしまわないように、ふだんからこの位のテープを聞いても疲れずに練習をしておくといい。

問：絵を見ながら会話を聞きその内容に合うものを選ぶ。

会話の前後に一回ずつ問題が読まれる。問題をよく聞いて、それに関係ある要点だけをメモするといひ。

問に関係ない部分はわからなくても気にすることはなく、全体の流れを聞きとるようにする。この形式の問題は1991年度には出題数が減っている。(5～6分)

問題の形式としては、絵を順番に並べるものと、テ

ープの内容に合ったものを1つ選ぶものがある。理料的内容のものが毎年1つ出題されるが、これは言葉が難しいだけで内容は簡単なのでびっくりしないで、冷静に聞くこと。テープの内容に合うグラフを選ぶ出題も必ず1題ある。次の問題にうつる前に、時間があれば次の絵を見ておくと早く理解できる。

問：絵がなく、テープを聞いてその内容に合ったものを選ぶ。20分位かかる。1991年度には絵を使う問題が減り、絵のない出題がふえている。

これも問題が会話の前後に1回ずつ読まれるので要点だけをメモし、その他は無視する。会話の場面は、パーティー、ハイキング等のうち合わせ、論文についての相談、大学の講義など、大学、大学生活に関するものが多い。社会的場面では、会社内での電話の応対・伝言などがある。又、デパート・駅などのアナウンス、お知らせの聞き取りもたびたび出題される。

ラジオニュースが1題ある。ラジオの料理番組、ディスクジョッキー、インタビューなども出る。全体にあまりややこしいものはないので、前のテストのテープで練習しておけば、簡単にできるだろう。

第1部

インデックス編